

えとこだより



ここにあるすべてを、
かけがえのない「宝もん」へ。

旧三川村五十島・渡船場跡にて、元船頭さんから阿賀野川と共に生きたあの頃を伺う (撮影: JPS 日本写真家協会会員・山口冬人氏)

もくじ

特集1	あがのがわ環境学習ツアー	2
光と影に向き合う「ほんもの体験」はじまる。		
あがのがわ環境学習ツアーの3本の柱		3
あがのがわ環境学習ツアー「主なプログラム紹介」		4
あがツアー体験記「日帰り学習レポート」		6
特集2 阿賀野川エコミュージアムを目指す		6
流域再生フォーラム開催レポート		8
インフォメーション		

阿賀野川流域の“光も影も”未来へ伝えていくために

「新潟水俣病の教訓」を伝える「阿賀の宝もん」も自慢できる新しいリズムが始まった

現在、阿賀野川流域全体を舞台に展開する「阿賀野川えとこだプロジェクト」と「阿賀野川エコミュージアム構想」。この2つの流域再生プロジェクトから生まれた様々な環境学習プログラムを、県内外から流域を訪れた多くの方々から体験していただくため、「あがのがわ環境学習ツアー」という取組が昨年より始まっています。

こうしたツアーは通常、新潟水俣病の教訓を伝えるツアーか、阿賀野川流域の魅力伝えるツアーに、完全に分離しています。しかし、これまでの地域再生の経過や流域の現状を踏まえると、両方を（時には組み合わせ）展開できるツアーリズムの仕組みが必要だと考え、「あがのがわ環境学習ツアー」が立ち上がりました。

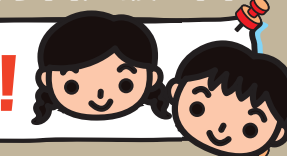
こうした試みを着実に前進させていくことで、全国の人々が阿賀野川流域を見る目がどう変化するか、一方でそれが流域の未来にどう影響してくるのか、今号の特集などを通じて、流域の皆さんと共に考えを深めていければ幸いです。

「小学校の先生方へ!!」

総合学習応援企画

あがのがわ
環境学習
ツアー

「ほんもの体験」参加クラス募集!



新潟水俣病を学習できます

今も昔も流域に様々な恵みをもたらしてくれる阿賀野川。しかし、過去にこの大河で起きた悲しいできごとを現地で学習できる機会は、あまり多くありません。

そこで、小学校5・6年のクラスを対象に、総合学習や道徳などの授業の一環として、先生が無料で利用できるプログラムを提供いたします。

対象 五泉市・阿賀野市・阿賀町の小学校5・6年のクラス(20名前後～40名前後)

内容 ① かつての企業城下町・鹿瀬の現地見学
② 元・船頭さんが現地で語る公害の被害

費用 プログラム受講は無料(※バスや昼食についても原則的に負担可能)です。

募集期間●H25年9月～11月



申込 (一社) あがのがわ環境学舎
TEL&FAX 0250-68-5424



「阿賀野川えとこだプロジェクト」とは?

正式には「阿賀野川流域地域フィールドミュージアム事業」(通称FM事業)と言い、阿賀野川流域の各地域が今も続く新潟水俣病と向き合い、それを乗り越えるような「人と人の絆」や「人と自然の関係」を紡ぎ直すため、流域の住民・行政・民間団体が手を取り合い、「新しい地域づくり」を目指して始まったプロジェクトです。

阿賀野川えとこだ! 憲章(事業理念)

私たちは新潟水俣病に学び教訓を伝承することで、負の遺産から新たな価値を創造していくことを目指します。阿賀野川流域の宝物を広く内外に発信しながら、公害により失われた人と人、人と自然、人と社会の絆をつむぎ直していきます。地域を愛する人が地域の未来をつくる「流域自治」の確立へ向けて行動します。(阿賀野川流域地域フィールドミュージアム事業推進委員会)

編集後記

第10号はいかがでしたでしょうか?
「あがのがわ環境学習ツアー」は一般社団法人あがのがわ環境学舎の独自事業として運営していますが、特集でご覧いただいたとおり、阿賀野川流域の様々な団体の方々から支えていただいております。そのおかげで、「阿賀野川流域を“ほんもの体験”できたよ!」とお言葉を参加された方々から多くいただいております。この場を借りて深く感謝申し上げます。
平成25年度もはや折り返し地点に近づき、後半戦に突入しようとしています。次号も阿賀野川流域の“ほんもの”を発掘して参りたいと思いますので、ご期待ください。

阿賀野川えとこだより 第10号

発行:新潟県(※環境省補助事業) 発行日:2013年8月23日
企画編集:一般社団法人あがのがわ環境学舎(〒959-2221 阿賀野市保田 3866-1)

TEL.&FAX.0250-68-5424
aganogawa@niigata.email.ne.jp

「阿賀野川えとこだ! ブログ」
<http://www.aganogawa.info/>



リニューアルまであと一歩...